

2021年度 SF入学試験	学部	商学部	試験科目	小論文
------------------	----	-----	------	-----

別紙解答用紙に解答すること。

次の文章を読んで解答用紙の設問に答えなさい。

多くのスポーツイベントでは、イベントにかかる支出額の総計（直接効果）や参加者の消費支出額を基にした産業連関分析による生産誘発額（経済波及効果）を経済効果として算出するケースが多い（丸山, 2012; 二宮ほか, 2014）。東京五輪の場合、東京都は、その経済効果を2兆9,609億円、みずほ総合研究所は2兆5,000億円（宮本, 2014）、さらに森記念財団都市戦略研究所（2014）は、インフラ整備などの需要も含め約19兆4,000億円といった試算を提示している。学問領域に目を向けると、1990年代中頃から北米の研究者が中心となり、経済効果の実証研究が開始された（e.g., Crompton, 1995; Gratton et al., 2000）。これまでの経済効果研究で得られたコンセンサスでは、経済効果は、大きく2つあるいは3つに分類され推計されてきた。第1に、直接効果（direct effect）である。直接効果は、スポーツイベント開催に伴い、宿泊施設や飲食関係、交通機関など地元経済に直接支出される資金を指す。第2に、間接効果（indirect effect）である。間接効果は、地元経済に投入された直接支出から生み出される効果である。間接効果を考える場合、他の地域への漏出が発生することに留意しなければならない。また漏出額の大きさは、地元経済の大きさや閉鎖性によって異なる。第3に、誘発効果（induced effect）である。誘発効果とは、追加的な所得が地域内で再消費される際に発生する効果とされている（Saayman et al., 2005）。これらの効果を通じて、メガ・スポーツイベントの開催により有意に正の雇用効果が生じる（Feddersen and Maennig, 2012）ことや公的支出が経済効果をもたらすこと（Jiménez-Naranjo et al., 2016）が明らかにされている。一方で、準備期間や開催年には、その効果は大きいものの、長期的な視点では効果が続かず大きな影響を及ぼすとはいえないこと（Kasimati and Dawson, 2009）や経済効果はもたらされるものの、大きなものではないとする研究（Li et al., 2013）もある。

他方、経済効果と対比される形で、注目を集めるのがスポーツイベントの社会効果である。社会効果とは、地域住民が味わう祝祭的な気分や地域に対する誇り、社会的連帯の強化といった心理的所得を指し（原田, 2008）、地域住民の認知的な側面から検証が行われている。学問領域に目を向けると、2000年代中頃からメガ・スポーツイベントを対象として、社会効果の研究が開始された（e.g., Kim and Petrick, 2005; Kim et al., 2006; Waitt, 2003）。Kim and Petrick（2005）は、これまで社会効果は等閑視されてきたが、これを無視することは、ツーリズム発展のための地域住民のサポートを失う可能性があり、今後は経済効果と同様に地域住民の社会効果を重要視すべきだと主張している。また木田（2013）は、スポーツイベントを開催することは、従来の経済効果やスポーツそのものの振興や青少年の育成以外に、地域アイデンティティの醸成、地域活動や各種交流の促進、地域情報の発信などの社会効果もあり、これらの社会効果が注目されるようになってきていると述べている。

さらに近年では、スポーツイベント開催において重要とされるのが環境問題、すなわち環境効果である（Collins et al., 2009）。その背景には、社会的に環境問題への関心が高まっており、民間企業がその社会的責任を果たす行動が注目されていることがある。こうした社会的背景から、スポーツイベント運営においても、環境に配慮したイベント運営が求められており、東京マラソンでは2008年から2010年にグリーンプロジェクトと題し、CO2排出量の調査結果をホームペ

ージやマスメディアに公開するなど（山口ほか, 2015）、環境に配慮したイベント運営を実践している。

（出典：山口志郎・押見大地・福原崇之「スポーツイベントが開催地域にもたらす効果：先行研究の検討」『体育学研究』、2018年、第63巻、第1号、13-32頁より引用）

以上

